

アルバータだより

Alberta News

Hokkaido-Alberta Dairy Science & Technique Exchange Association

北海道アルバータ
酪農科学技術交流協会

No. 108

2019年(平成31年)3月31日

目次

- 1 会長挨拶
- 2-3 アルバータ州訪問について
- 3 アルバータ大学からの来訪
- 4 第45回アルバータ州派遣留学生報告書

- 4-5 佐藤貢・雪印乳業—酪農学園・アルバータ大学奨学金
5 研修レポート
- 6 第46回定期総会の開催について
会費・寄付金・助成金
役員名簿

自然災害からの復旧・復興を祈りつつ、 日本酪農の発展を見据える

北海道アルバータ酪農科学技術交流協会

会長 谷山 弘行
(学校法人 酪農学園理事長)



北海道アルバータ酪農科学技術交流協会の交流事業推進につきまして、日頃から皆様には格別のご協力、ご支援をいただき心より厚く御礼申し上げます。2018年度も関係者の皆様方の多くのご協力とご支援をいただきながら事業推進に努めてまいりました。

2018年度は度重なる自然災害が起りました。6月末から7月初旬の中国・九州地方を中心とする西日本豪雨では、河川の氾濫、浸水、土砂災害により甚大な被害が起り、また中部地方や北海道の広い範囲にも大雨の被害は拡大しました(7月豪雨)。9月4日には台風第21号が日本に上陸しました。関西国際空港の滑走路が浸水し、さらにはタンカーが空港に続く連絡橋に衝突したことにより空港が孤立状態になるなど、近畿地方を中心に大きな被害をもたらしました。当協会事務局のある酪農学園大学構内でも多くの木々が倒れ、4日から5日にかけて構内が一時停電になるなどの被害がありました。

さらに、その翌日9月6日早朝に胆振中東部を震源とする震度7の大地震(北海道胆振東部地震)が起り、厚真町、安平町、むかわ町、札幌市などで甚大な被害が発生しました。胆振東部地震においては、北海道全域がブラックアウトというこれまで経験したことのない事態に陥り、大きな不安の中で時を過ごしました。長時間にわたる停電により日常生活は一変し、あらゆるところに被害が拡大

しました。酪農関係においては停電により搾乳ができず、乳房炎の発生や牛乳廃棄などの被害も発生しました。今年度、自然災害により被害に遭われたすべての方々に、衷心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

2018年度は「アルバータ大学夏季研修プログラム」に2名、昨年度スタートした「海外農業研修サポートプログラム」に1名の学生を派遣しました。3名は、カナダアルバータ州での英語の授業(アルバータ大学)や様々なアクティビティ、ホームステイ、農業研修などを体験する中で、初めての体験や英語漬けの日々に苦勞することもあったようですが、それ以上に多くのことを吸収して帰国しました。

また、今年度、学生派遣の受入機関の充実を図るため、在東京アルバータ州政府のご協力を頂き、アルバータ州エドモントンにあるThe Northern Alberta Institute of Technology (NAIT) を訪問し、派遣学生の受け入れの可能性について調査いたしました。NAITはシミュレーション教育の体制が充実しています。世界的にも最新式の施設を有しており、当協会が派遣する留学生の受け入れ機関として適していると考えられます。現在、NAITの担当スタッフと情報交換を行い、今後、受入機関として協定締結が可能かどうか引き続き調査を継続しているところです。

2018年の暮れも押し迫った12月30日に農業関係者にとって大きなニュースが発表されました。環太平洋経済連携協定(TPP)参加11カ国の協定「TPP11」が12月30日に発効しました。本協定は、まず11カ国のうち国内手続きを終えたメキシコ、日本、シンガポール、ニュージーランド、カナダ、オーストラリアの6カ国に適用されることとなりました。早晩11カ国が揃うものと予想され、人口約5億人、10兆ドルの巨大経済圏が生まれると期待されています。しかし、農業や酪農・畜産業界は関税の引き下げや撤廃により、さまざまな影響を受けるのではないかと大きな懸念が持たれています。また、酪農経営にもさまざまな影響を与えることが心配されており、今後の動向について注視していかなければならないと思われま

す。今日、酪農を取り巻く環境は、自然災害の被害に加えて、激しく変動する国際情勢の荒波に曝され、気の抜けない状況にあります。自然災害に対して十分な備えをしながら、激変する国際情勢に対応できるよう、日本の酪農の発展をしっかりと見据えなければならぬと思われま

す。当協会は酪農の健全な発展に貢献できるように尽力したいと考えておりますので、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

アルバータ州訪問について

2018年6月16日～23日の8日間、堂地修事務局長とアルバータ州を訪問し、学生派遣先であるアルバータ大学(University of Alberta)、近年派遣が滞っているオールズカレッジ(Olds College)、今後の派遣プログラム構築を目的としてNAIT (The Northern Alberta Institute of Technology)の3機関を視察しましたのでご報告いたします。

【アルバータ大学 University of Alberta】

アルバータ大学には、① 高校生派遣プログラムの協議、② 佐藤貢・雪印乳業-酪農学園大学・アルバータ大学エクステンション学部奨学金同意書の更新協議、③ 第45回アルバータ州派遣留学生永谷万里菜さんとの面会、④ 現地協力者オガタコープ緒方明子さんへの表敬を目的に訪問しました。



アルバータ大学責任者のMs. Mimi Hui (Executive Director, International Community Engagement Office)を中心に有意義な協議を行うことができ、2019年度からは奨学金同意書を更新し、従来の『英語研修プログラム』、『海外農業研修サポートプログラム』、『大学院生留学サポートプログラム』に加え、『高校生留学サポートプログラム』も実施可能となりました。各プログラムの定員を満たし、多くの学生を派遣していきたいと考えています。

また、2018年度に派遣した永谷さんも元気に留学生生活を謳歌しており、留学延長も考えているとのことでした。更にオガタコープの緒方明子さんとは、派遣留学生に有事が発生した際の一次対応、相談対応等について業務契約を交わすこととし、留学生にとってもより安心・安全な留学生生活を送れると思います。

【オールズカレッジ Olds College】

オールズカレッジは、1990年の学生派遣開始から約100名の学生を派遣した実績がありますが、2014年度の派遣を最後に交流が途絶えています。その要因の一つとして派遣学生の語学力が指摘されておりますが、学長の交代、国際交流担当者の交代も要因の一つであると考えています。特に国際交流担当者の交代による影響は大きく、相手先協定校に対する想いや歴史を引き継ぐことは難しく、その担当者の熱量に応じて交流実績が左右されることが多々見受けられます。



オールズカレッジも学長の交代、国際交流担当者の交代がありましたので表敬と交流再開を目的とした協議を行ってきました。4月からの新たな担当者(Ms. Meghan McKinrie)はサスカチュワン大学でドイツ語講師を務め、その後エドモントン市内のMacEwan Universityの国際交流部門で7年ほど勤務された方です。今までの交流実績を説明し、今後の学生受け入れについて依頼すると共に、リニューアルされたキャンパス施設(個室タイプの寮や附属農場など)の視察を行いました。

オールズカレッジ側の回答は、「ぜひ学生を受け入れられるよう努め、学内調整を図りたい」とのことでしたが、1月現在正式な回答を得るには至っていません。

【NAIT The Northern Alberta Institute of Technology】

NAITは、オールズカレッジへの派遣が不可能になった場合のことを考慮し、アルバータ州政府在日事務所に相談して紹介を受けた機関であり、学生派遣、学術交流協定締結に向けての協議および、施設・周辺環境の視察を行いました。

NAITの所在地はダウンタウン中心部から地下鉄(LRT)で10分程度北に位置する州立のポリテクニクの高等教育機関で、単位取得コースの学生数が16,000人(留学生数:94カ国1,800人)、技術トレーニングコースには12,000人、約2,900人の教職員が在籍しています。

また、Health & Life Sciences, Business, Engineering Technologies, Environment & Natural Resources, Construction, Computers & IT, Hospitality & Culinary, Upgrading & ESLなど多くの学部を有しており酪農学園大学と同様に実学教育を展開しています。

特にHealth & Life Sciencesは、人も動物も対象としており、Animal Health Technology Program, Veterinary Medical Assistant Programなどは酪農学園大学学生が興味を持つところだと思います。またHospitality & Culinaryは食品に関するプログラムで、エドモントン市内のレストランシェフのほとんどがNAIT出身であり、今後は食品開発にも力を入れようとしているとのことでした。



さらに、特筆すべきは最先端の技術・装置を駆使したシミュレーション教育に力を入れていることで、看護師、救急救命士、動物看護師などの訓練において、実際の人や動物を使った実習前のモデル実習として、プロジェクションマッピング等を駆使した施設で行われており、視覚のみならず臭いや音なども限りなく現実に近い状況で実施されていました。このSimulation Centreが有する施設・設備は世界に3カ所のみ

であり、北米唯一とのことでした。動物に関する実習については、動物福祉の観点からも有意義であり、今後日本でも導入されると思われる設備を使用していました。

NAITの担当者も協定締結にはとても積極的で、丁寧な施設紹介やミーティングの機会を持つことができました。短期間ではありますが、NAITの学生を酪農学園大学に派遣することも検討しており、既に協定締結、交流実績を作るための覚書を交わすことができました。今後は両機関の交流を盛んにし、より充実したプログラムを構築し多くの学生を派遣していきたいと考えております。

(アルバータ協会事務局 高山基樹)



動物病院の処置室を別室でモニタリング



プロジェクションマッピング技術で教室がスケートリンクに



緊急車輛の運転シミュレーション



医療面接実習の様子



処置室で緊急事態（仮想）が発生し学生の動きをチェック



救急車の後部も教室内に設置

アルバータ大学からの来訪

2018年10月25日(木)にカナダのアルバータ大学からDr. Katy Campbell (エクステンション学部長)、Dr. Martin Guardado (英語学校部門長)が酪農学園大学を訪問しました。当日の話し合いの場には、招聘研究者として来日していたアルバータ大学の太場真人教授にもご同席いただきました。

Dr. Guardadoからアルバータ大学のEnglish Language Programの教育システム変更についての説明を受け、酪農学園大学から学生を送る場合に所属することになるプログラムについて、今後の方向性を話し合いました。現在本学から学生を送っているプログラム(English Language SchoolによるIntensive Day Program)は閉鎖され、新しくEnglish Language and Cultural Seminarプログラムが2019年夏よりスタートします。これは、留学生がレベル別の語学クラスで授業を受け、同時にStudent Engage Centreが提供する様々なアクティビティに参加することで世界中の留学生と関わりを持つことができるコースです。語学のみならずカナダの文化にも触れることができる、より総合的なプログラムに生まれ変わる予定です。

また、EAP (English for Academic Purposes) の各クラスにも留学可能です。これは、7週間1タームで、英語力によって分けられたクラスで語彙力強化・英語の流暢さや正確さの養成に焦点を当て、「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランス良く強化するプログラムです。

これらのプログラムについての説明を受けた後、お二人にはキャンパス内を見学していただき、その後昼食会を開催しました。道産の秋鮭を使った料理に舌鼓を打ち、お二人は次の訪問地である新潟に向かわれました。

アルバータ大学には、現在1名が長期留学中で、その留学生活の様子を4ページで紹介しておりますので、ご覧ください。



第45回アルバータ州派遣留学生報告書

酪農学園大学 循環農学類 2017年度卒業 永谷万里菜



私は去年の4月末にカナダのアルバータ州にあるエドモントンに着きました。その頃、雪はすでに解けていて、これから暖くなるのを肌で感じたことを覚えています。英語もほとんどできず、一人で海外に行くことも初めてだった私にとって、カナダでの経験は全てが新しく、衝撃的で、キラキラしていました。

私はエドモントンでUniversity of Alberta のEnglish Language Schoolに通い、英語を勉強しています。ELSには色々な国から色々な人が英語を学ぶために通っています。主婦の方や子供がいる方、カナダの大学に行きたい学生など、英語を学んでいる環境や理由は人それぞれです。カナダに来る前はELSに通うか、カナダの牧場で実習するかで悩んでいたのですが、今思うとELSに通って良かったと本当に思います。なぜなら、たくさんの違う国から来た人々に出会うことができ、英語だけではなく、出会った人々の国の文化や人柄、海外から見た日本、アジアについて知るきっかけや、それらについて考え、学ぶチャンスを得ることができたからです。カナダに来る前、私にとって中学、高校で学んだ世界史や日本史は大げさに言うところの物語でした。「昔ここでこの国とこの国は戦争をしていて、だから今私たちの生活はこうなっています。」と言われても全く実感が湧かずにいました。その国の人が何を思い、感じ、どうしようとしたのかなんて考えたこともありませんでした。その国の人に会ったこともないし、行ったこともなかった私にとって、歴史は他人事でただの物語でした。しかし、カナダに来てその考えが大きく変わりました。教科書やテレビ、ネットニュースで流れる情報が私にとって「物語」から「リアル」に変わりました。歴史はただの他人の物語ではなく、友達や自分の物語に変わり、友達や自分のバックグラウンドは知らなければいけないと思いました。ニュースを見て「海外は怖いねー」などと言うだけでは終われないと思いました。そして世界は私が想像していたよりも密接に繋がっていて、なぜ人々が政治や経済を学ぼうと思うのか、なぜそれらが重要なのか、そんなことを考えさせてくれました。

英語ができなかった私と一緒に過ごしてくれた私の友達はこの先何年経っても私の大切な友達に変わりありません。みんながいてくれたから私は今、カナダにきた時よりも英語でコミュニケーションを取れるようになりました。英語を少しでも話せるようになったからこそ、知らなかったことを知ることができ、自分の可能性を広げることができたと思っています。カナダで出会った先生、友達、ホストファミリーに私は恵まれ本当にラッキーだと思います。

私はいつも人と違うことがしくて、父と母に今でもたくさん心配をかけています。どんなにぶつかっても最後は私の好きなようにさせてくれる両親に私はいつも感謝しています。アルバータ協会を通してアルバータ州に来ることができた私はとても恵まれていると思います。アルバータ協会の方々、酪農学園大学の先生方、私を担当してくださった方々、たくさんの人たちに助けてもらい、素晴らしい経験をカナダでさせてもらうことができているのだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今後はもう少し英語を勉強させてもらい、今年中にはカナダの牧場で実習を始めることができたらいいと考えています。カナダで過ごした時間を将来に活かせるようにこれからもまだまだ頑張りたいと思います。



佐藤貢・雪印乳業一酪農学園・アルバータ大学奨学金

今年度も「アルバータ大学夏季研修プログラム」、2017年度からスタートした「大学院生留学サポートプログラム」及び「海外農業研修サポートプログラム」の3つのプログラムに対し、奨学生の募集を行いました。アルバータ大学夏季研修プログラムに2名、海外農業研修サポートプログラムに1名の学生が選ばれ、派遣されました。

2018年8月6日（月）に行われた奨学金授与式では、派遣学生それぞれが留学の抱負を英語でスピーチし、谷山会長から奨学金証明書が授与されました。3名は8月下旬から9月下旬の約一か月間、それぞれの地で学習、実習に励みました。3名の報告書は当協会のホームページにも掲載しましたが、一部を抜粋して紹介いたします。

また、2019年度から新たに「高校生留学サポートプログラム」がスタートします。酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校の高校生1名に対し、20万円の奨学金を支給し、奨学生として選考された生徒は、夏に2週間、アルバータ大学にて英語研修を行います。とわの森三愛高校で海外留学に奨学金が授与されるのは初めての事です。派遣された生徒がカナダで多くのことを学び、吸収し、視野を広げて帰国し、その体験を周囲に伝えてくれることを願っています。



佐藤貢・雪印乳業－酪農学園・アルバータ大学奨学金

- ・カナダ アルバータ大学夏季研修プログラム(英語研修コース・ファームステイコース)(両コース合わせて10名程度)
期間は約4週間。応募学生の中からTOEICスコア上位5名に対し、20万円の奨学金を支給。
- ・大学院生留学サポートプログラム(1名)
北米地域の協定機関に受け入れを認められた大学院生1名に対し、30万円の奨学金を支給。
- ・海外農業研修サポートプログラム(1名)
協定機関、受入農家、農業研修を紹介する外部機関を通じ、カナダでの農業研修が認められた学生に対し、20万円の奨学金を支給。
- ・高校生留学サポートプログラム(1名) *2019年度スタート
アルバータ大学での英語研修。酪農学園大学附属とわの森三愛高校の生徒1名に対し、20万円の奨学金を支給。

[研修レポート]

アルバータ大学・夏季研修プログラム(英語研修コース) 農食環境学群環境共生学類3年 栗山 董

私がこのプログラムを知ったのは先生に教えてもらったのがきっかけだった。もともと留学をしてみたいという気持ちはあったが、長期間の留学には不安を持っていたので短期間の留学はないか探していた時に見つけたのがこのプログラムだった。大学生の内にやりたい事はやろう、と決意して参加を希望した。研修先であるカナダは前々から行ってみたいと思っていた国の1つでもあり午前中はアルバータ大学の語学学校で英語の勉強をし、午後はアクティビティで自然や動物に触れ合えるという内容も酪農学園大学で動物の勉強をしていた私にとってはとても魅力的だった。今回の研修に参加し、国外に飛び出し様々な経験をする中でなにか新しい発見ができるのではないかと考えて決意した。



英語は中学まで得意教科だったが高校からできなくなってしまい、苦手科目になった。それからずっと英語は遠ざけて過ごしていたがどこか心残りがあるのは確かだった。そんな時にこのプログラムの存在を知り参加を決めたが、英語に苦手意識があった私の英語レベルでも十分に楽しむことができた。一週間程度で日常会話程度の言葉は聞き取れるようになり、ホームステイ先のファミリーも私のレベルに合わせてゆっくり話してくれたお陰で会話を楽しむことができた。しかし、もう少し英語の勉強をしていけばもっと沢山のひとと色々な話を話せたかもしれないと思うと少し後悔が残る部分もある。だが、カナダで出会った人達は英語ができるできない関係なく私に優しく接してくれた。カナダは日本より景色もそこに住む人達の心もどこか広く感じられた。この研修を通して出会った人達、見た景色、経験は全て私の一生の財産になるだろう。この経験を忘れることなく今後の人生を歩んでいきたいと思う。



アルバータ大学・夏季研修プログラム(英語研修コース) 農食環境学群環境共生学類4年 軽木樹々香

今回の語学研修で私はアルバータ州エドモントンにあるアルバータ大学に1カ月滞在しました。私がこのプログラムに参加した理由は、とても単純ですが、社会人になる前に色々な経験をしたかったからです。今年4年生の私は就職活動を終え、残りの学生生活を悔いなく過ごしたいと考えていました。社会に出てからも自分の力で乗り越えていけるように、今回の留学で得たものを糧にできたらと参加しました。しかし実際参加してみると、想像していた以上に困難なことも多く、とても多くの方に支えていただいたと感じています。カナダに行く前はただ不安しかなく、新たな挑戦でしたが、今回の留学に参加できた事を心から感謝しています。



実を言うと今回の留学に参加するまで、私は日常的な英会話くらいなら大丈夫だろうと思っていました。実際、ホストファミリーの英語はゆっくりで分かりやすかったので、すぐに馴染むことができました。しかし、カナダには様々な国の人がおり、同じ英語であっても人それぞれ癖や訛りがありました。また若い人が話すスラングやTGIF(Thank God, It's Friday.)などの略語など、私達が今まで教科書で習ったことのない英語や、ネイティブの話すスピードにまったくついていけない自分がいました。



留学中はただひたすらそんな自分が悔しかったです。しかしカナダにきて1週間が過ぎた頃、ホストマザーに「間違っても何度も話しかけて、自分の考えを喋りなさい。」と言われた事をきっかけに、ネイティブと話せる機会を無駄にしないという思いで積極的になれた事は今回の留学で得られた大きな糧かもしれません。まだまだ自分が納得できる英語力は身につけられていませんが、次にこのような機会があった時に、もっとコミュニケーションをとれるように、今後も英語を勉強していこうと思います。

海外農業研修サポートプログラム

農食環境学群循環農学類3年 齋藤もなみ

海外へは高校の修学旅行、家族や友人との旅行で何度か行ったことがあり、特に大きな不安もありませんでした。

私が滞在した農家のある町は、最近villageになった小さな町でThorsbyというところ。実習を行ったのはCEOのWarren Crowさんが2006年にメインとなる土地を購入し始めた農場、牧場です。2008年に穀物の経営をはじめ、2009年に牛を購入し、肉牛の放牧や繁殖が始まりました。放牧地は1時間以内のところ13の7000エーカーの土地があります。2018年には、約1200頭の子牛が生まれました。最初の日に、放牧地にトラックで連れていってもらいました。とてつもなく広い土地にさまざまな種類の肉牛たちがいて、感動したことをよく覚えています。



現地では、小麦や大麦の収穫を行い、穀物の貯蔵庫での機械作業も教えてもらいました。また、カウボーイに同行して一緒に牛を追ったり、更に滞在中にいくつか酪農家も見学させてもらいました。

今回の農業研修を通して、英語を勉強しに行くわけではないからとあまり英語学習に力を入れずに行ってしまいましたが、わかる単語がもう少しあればと思う反面、文化や自然や動物については、知りたい気持ちがあれば理解することができると実感しました。今度は、肉牛の分娩の時期に行ってみたいと思いますし、カナダについてたくさん知ることができ、日本の良さも感じ、とても良い経験をさせていただきました。

第46回定期総会の開催

2018年7月2日(月)に、酪農学園大学本館に於いて第46回定期総会(2018年度)を開催し、会員、関係者ら27名の方々にご出席いただきました。冒頭の谷山会長の挨拶の後、北海道農政部農政課主幹(政策調整)茅野裕喜様より来賓挨拶をいただきました。その後、堂地事務局長より出席者の紹介を行い、以下の議案がそれぞれ提案、承認されました。

- 第一号議案 2017(平成29)年度事業報告ならびに収支決算、監査報告について
- 第二号議案 2018(平成30)年度事業計画(案)ならびに収支予算案について
- 第三号議案 役員の変更について

定期総会に引き続き、派遣研修生報告会を行いました。2017年度佐藤貢・雪印乳業-酪農学園・アルバータ大学奨学金プログラムには4名の学生が派遣されましたが、当日は2017年度にスタートした大学院生留学サポートプログラムで派遣された佐藤駿さん(大学院酪農学研究科修了)、同じく2017年度にスタートした海外農業研修サポートプログラムで派遣された石山幹さん(農食環境学群食と健康学類4年)が4週間の留学体験を報告しました。また、アルバータ大学夏季英語研修コースに参加した長谷川千夏さん(農食環境学群循環農学類3年)と吉岡美帆さん(獣医学群獣医学類4年)は授業のため報告会には参加できませんでしたが、4週間の体験をスライドショーにまとめ、出席者の皆様にご覧いただきました。



会費・寄付金・助成金

誠にありがとうございました。
感謝をもってご報告申し上げます。(敬称略・順不同)

永谷 芳晴、加藤 寛治、青野 芳樹、田守 義博、
長井 信之、相澤 親、杉本 和彦、金川 幹夫、
池田 未佳、加藤 源祐、五十嵐広司、泉澤 章彦、
渡辺 南、安田 元、伊藤 智
(以上15件)

一般社団法人 北海道酪農協会
北海道ホルスタイン農業協同組合
株式会社 町村農場
雪印種苗株式会社
雪印メグミルク株式会社
公益財団法人 酪農学園後援会
学校法人 酪農学園
(以上7件)
2019年3月8日現在
合計 1,395,000円

2018年度 北海道アルバータ酪農科学技術交流協会役員名簿 (2018年7月2日現在)

役職	氏名	所属	備考
名誉会長	高橋はるみ	北海道	知事
顧問	新 梶田 敏博	北海道	農政部長 ※1
会長	谷山 弘行	学校法人酪農学園	理事長
副会長	新 高山 光男	雪印種苗株式会社	代表取締役社長 ※2
	町村 均	株式会社町村農場	代表取締役
	佐藤 泉	学校法人酪農学園	監事
常任理事	金子 正美	酪農学園大学社会連携センター	センター長
	池浦 靖夫	雪印メグミルク株式会社	酪農総合研究所所長
	山口 哲朗	北海道ホルスタイン農業協同組合	代表理事 組合長
	山本 隆	日本酪農青年研究連盟	委員長
	菅沼 英二	酪農学園大学	名誉教授
	安宅 一夫	酪農学園大学	名誉教授
	近 雅宜	学校法人酪農学園	常務理事
	竹花 一成	酪農学園大学	学長
	新 西田 丈夫	とわの森三愛高等学校	校長 ※3
	高橋 茂	酪農学園大学	元教授
	樋口 豪紀	酪農学園大学 獣医学群 獣医学類	教授
	萩原 克郎	酪農学園大学社会連携センター	副センター長
監事	永田 享	公益財団法人酪農学園後援会	常務理事
	米山 洋	雪印種苗株式会社	経理課長
参与	倉田 幹也	雪印メグミルク株式会社	北海道副本部長
	小山 久一	酪農学園大学同窓会校友会	会長
	黒澤 敬三	酪農学園大学短期大学部同窓会	会長
	及川 伸	酪農学園大学 獣医学群	学群長
	中辻 浩喜	酪農学園大学 農食環境学群 循環農学類	学類長
	竹田 保之	酪農学園大学 農食環境学群 食と健康学類	学類長
	佐藤 喜和	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類	学類長
	山下 和人	酪農学園大学 獣医学群 獣医学類	学類長
	北澤多喜雄	酪農学園大学 獣医学群 獣医保健看護学類	学類長
事務局長	堂地 修	酪農学園大学 農食環境学群	学群長

※1 退任 顧問 北海道 前農政部長 小野塚 修一 ※3 新規 退任 理事 学校法人酪農学園 学園長 仙北 富志和
 ※2 退任 副会長 雪印種苗株式会社 常務取締役 久保 孝

